

## 平成26年度定時評議員会議事録

1. 日 時：平成26年6月14日（土） 11：00～14：30

2. 場 所：岸記念体育会館1階スポーツマンクラブ

3. 出席評議員（順不同・敬称略）：

北海道セーリング連盟：濱田賢、岩手県ヨット連盟：長塚奉司、外洋津軽海峡：荒山雅仁、群馬県セーリング連盟：中川淳、千葉県セーリング連盟：大橋一之、東京都ヨット連盟：落合光博、神奈川県セーリング連盟：藤井清一、山梨県セーリング連盟：羽田定造、外洋東京湾：大村雅一、東京ヨットクラブ：平生進一、新潟県セーリング連盟：細井房明、愛知県ヨット連盟：岡田彰、外洋東海：川合紀行、福井県セーリング連盟：鈴木規之、京都府セーリング連盟：坂文彦、大阪府ヨットセーリング連盟：岩崎洋一、兵庫県セーリング連盟：川上宏、和歌山県セーリング連盟：山口慶一、外洋内海：山岡閃、NPO岡山県セーリング連盟：岩崎裕児、（公財）広島県ヨット連盟：丸川義則、（社）山口県セーリング連盟：小泉周三、愛媛県セーリング連盟：黒川重男、福岡県セーリング連盟：岩瀬広志、佐賀県ヨット連盟：松山和興、外洋南九州：宇都光伸、全日本学生ヨット連盟：杉山嘉尚（財）全国高等学校体育連盟ヨット専門部：岡嶋佳治、（社）日本ジュニアヨットクラブ連盟：中根健二郎、全日本実業団ヨット連盟：外尾竜一、日本視覚障害者セーリング協会：秋山淳、日本470協会：三船和馬、日本レーザークラス協会：木村治愛、日本IRCオーナーズ協会：斜森保雄

**以上、出席 34名**

欠席評議員（順不同・敬称略）：外洋北海道：修田光紹、秋田県セーリング連盟：佐藤利秋、茨城県セーリング連盟：中村孝一、外洋三崎：二松工、外洋湘南：新井五一、横浜クルージングクラブ：長谷川裕、NPO静岡県セーリング連盟：杉山武靖、岐阜県ヨット連盟：川瀬修央、外洋駿河湾：浅井一省、富山県セーリング連盟：加賀谷賢二、大阪北港ヨットクラブ：高井博、外洋西内海：山田孝治、香川県ヨット連盟：九富潤一郎、長崎県セーリング連盟：古賀誠次、日本ウインドサーフィン連盟：宮野幹弘

**以上、欠席 15名**

その他出席者（順不同・敬称略）：

名誉会長：山崎達光、会長：河野博文、副会長：西岡一正、植松眞、森山雄一、中川千鶴子、専務理事：前田彰一、常務理事：児玉萬平、鈴木修、理事：斎藤渉、中澤信夫、鈴木國央、相澤孝司、餅啓一、平井昭光、森信和、坂谷定生、高間博之、守本孝造、山本嘉一、井川史朗、吉留容子、剥岩政次、監事：栗原博、中村隆夫、顧問：小田切満寿雄、参与：小山泰彦、委員会：戸張房子国際委員長、柳澤康信広報委員長、永井真美環境委員長、増田開ルール委員

長、名方俊介ワンデザイン計測委員長、斉藤威普及委員長、吉田豊外洋計測委員長、大坪明外洋安全委員長、豊崎謙広報委員、被選理事監事：平松隆、川北達也、天辻康裕、上野保、オブザーバー：石黒建太郎、細川敬一、国分良志

以上、その他出席 43名

#### 4. 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員 49 名中、出席 34 名で、定款第 19 条に基づき定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

定款 18 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は大村雅一評議員に決定し、平成 26 年度定時評議員会開催の宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、中川淳、坂文彦の両評議員が任命され、承認された。

(河野会長挨拶)

平成 25 年度事業報告ならびに決算は、評議員各位からできるだけ幅広いご意見をいただきたい。重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

#### 5. 議案

##### 1) 平成 25 年度事業報告及び決算報告 (案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 25 年度事業報告 (案) について説明があった。

①昨年 9 月 7 日 IOC 総会で 2020 夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定した。JSAF としてオリンピック招致委員会からオリンピック準備委員会と名称を変更、委員会メンバーを大幅に増員し、2020 年オリンピック・パラリンピックの成功に向けた取り組みを始めた。②リオデジャネイロ・オリンピックに向けた取り組みは、従来のオリンピック特別委員会からオリンピック強化委員会と名称を変更、ジュニア・ユース育成強化委員会を統合した。東日本・中日本・西日本と 3 水域に分割し、東京オリンピックを踏まえた次世代の育成強化にも取り組むことになった。オーストラリア・パースと提携し、リオデジャネイロ・オリンピックに向けた選手強化に尽力している。③ユース制式艇種の選定と普及は、世界に羽ばたくユース世代を育成するため、制式艇種として 420 級とレーザー一級を導入することになった。特に 420 級の普及のため、寄付金を集め世界大会で使用した新古艇を輸入、全国各地に配布した。2015 年に和歌山で開催される国体およびインターハイでの実現に向けて取り組んでいる。④大型艇レースは、外洋関係者の努力が実を結びジャパンカップ、パールレース、ミドルボート選手権の他、新たに神戸横浜レースも実施してきた。また、トランスパックへの参加やニューヨークヨットクラブ招待レースに参加

し好成績をおさめた。ただ、残念なことに落水者などの事故があった。外洋総務・外洋計測・外洋安全の各委員が協力し、より一層安全に注意して大型艇レースの活性化を図る。

⑤スポーツ指導における暴力行為の根絶は、文科省・日体協・JOCからの呼びかけもあり、スポーツ指導者に対する暴力行為の根絶の観点から、総務委員会で検討し、倫理規程、倫理委員会規程を立ち上げた。⑥その他、世界大会に関して、5月IFDS主催ブラインドセーリング世界選手権大会、8月にIODA主催OP級アジア選手権大会が開催され、成功裏に終了した。環境委員会では、従来の小中学生絵画コンテストに代わり「環境コンテスト」を実施した。また、不要となったセールを使ったエコバッグのワークショップを実施した。インターネット関連では、広報委員会でJSAFホームページのリニューアル、総務委員会では会員システムの改定に向けた計画に取り組んだ。ルール委員会は、ISAF IUセミナーを葉山で開催した。海外からも参加希望があり、国際アンパイア資格の試験が行われた。全国代表者会議で、平成26・27年度役員推薦候補者の選挙理事候補者による所信表明があり、公益移行後初めての理事候補者選挙が実施されたとの発言があった。

斎藤理事から資料に基づき、平成25年度決算報告（案）について説明があった。

収入は予算比で全般的に増加傾向となる一方、支出は2次補正予算に組み込まれた3項目が年度内に費用化することができなかつたため予算比で減少し、最終的な当期収支差額は7,164千円の黒字となった。2次補正に支出計上したが、決算には計上されなかつた主な項目は、会員システムリニューアル費4,000千円、ホームページリニューアル費3,000千円、事務局PC入替費800千円の計7,800千円である。これらは2月くらいから業者とコンタクトを始めていて、3月までに納品されることを想定していたが、諸々の事情により納入が4月以降となりH25年度決算には反映できなかつた。したがって、この部分はH26年度1次補正予算に反映させる予定である。次期繰越収支差額は、前期繰越収支差額57,630千円を加え64,794千円となった。

事業別（委員会別）収支は、①管理費・その他収入は、メンバー会費が予算比439千円増、加盟・特別加盟団体負担金も予算比480千円増となった一方、賛助会費は1,650千円の減少で74,874千円となった。支出は、全般的に抑制され前述のPC入替費800千円を含めて2,058千円減の58,092千円となった。②一般事業の各委員会は、予算比多少の増減はあるものの概ね想定通りとなった。③オリンピック強化委員会収入は、予算比5,744千円増の114,075千円、支出は同7,231千円増の108,459千円、当期収支差額は同1,487千円減の5,615千円となった。予算比で収支とも若干増額となったものの、概ね予算通りとなった。④制式艇種プロジェクトは、H25年度50艇を購入・販売し、収入は売却収入16,550千円と寄付金18,423千円の合計34,973千円、支出は購入費35,095千円と諸費用3,607千円の合計38,702千円、収支差額は▲3,729千円となった。⑤投資活動収支および財務活動収支は、退職給与積立支出843千円などを計上した他、制式艇種積立取崩収入26,750千円、同積立取得支出17,818千円、オリ強積立取崩収入865千円、同積立取得支出5,800千

円、リース返済支出（リース料）3,705千円などを計上し、合計収支差額▲337千円となった。⑥収益事業収支は、カレンダー・業務用品販売収入3,163千円、製作費・仕入費等支出2,357千円、収支差額806千円を計上した。この結果、当期収支差額は7,164千円の黒字となった。

貸借対照表では、資産は制式艇の購入費の初回支払分8,500千円を前払金に計上したことや減価償却費の計上などにより、最終的に16,598千円減少の147,967千円となった。この制式艇購入費は、2015年から和歌山で定点開催となるインターハイで主催者が用意する使用艇のうち30隻をJSAFが提供するために辻堂加工社に発注した頭金である。負債は、前年計上のJOC未払金15,000千円が終了したことやリース債務の減少などにより、最終的に16,870千円減少の54,382千円となった。正味財産は前年比271千円増加の93,584千円となった。

収支計算書内訳表は、公益法人の新会計基準により当連盟は「公益会計」「収益会計」「法人会計」の三つに会計を区分している。会費収入は50%を公益会計に計上、50%を法人会計に計上、管理費支出は、67%を公益会計・2%を収益会計・31%を法人会計に収支を規程により案分している。当年度決算の収支差額は、公益会計▲1,207千円、収益会計388千円、法人会計7,982千円となり、健全な状態を確保したとの発言があった。

中村監事から、平成25年度決算報告の監査報告があった。事業報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実認められない。計算書類及びその付属明細書並びに財団目録は、法人の財産及び損益の状況を適正に示しているものと認める。また、本年度から新しい外部監査で独立監査人の監査を受けた。過去に指摘された個人謝金の寄付金も調査して遵守していることを確認したとの発言があった。

平成25年度事業報告及び決算報告（案）は、棄権0、反対0、満場一致で承認された。

## 2) 平成26・27年度役員選任

前田専務理事から資料に基づき、平成26・27年度役員候補者について説明があった。

平成26・27年度理事・監事候補者は、定款22条第1項に基づき、会長推薦候補は河野博文氏、全国加盟団体代表者会議による理事候補者8名（敬称略）は、鈴木修、坂谷定生、平松隆、鈴木國央、中澤信夫、中村健次、川北達也、斎藤渉、水域推薦による理事候補者13名（敬称略）は、相澤孝司、末木創造、森信和、高間博之、山本嘉一、井川史朗、斉藤修、岡村勝美、餅啓一、平井昭光、大島茂樹、馬場益弘、剥岩政次、会長による推薦理事候補者5名は、西岡一正、植松眞、森山雄一、中川千鶴子、天辻康裕、監事推薦候補者3名（敬称略）は斉藤威、児玉萬平、上野保である。

なお、定款22条会長・副会長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議により、理事の中

から選任するとの発言があった。

平成 26・27 年度役員候補者は、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

## 2. 長崎国体挨拶

長崎市実行委員会事務局から総務企画課長の平野浩行様から、平成 26 年 10 月 13～16 日、長崎サンセットマリーナにおいて「長崎がんばらんば国体」セーリング競技大会が開催される。心に残る大会を目指して準備取り組んでいるので、連盟関係者各位のご協力依頼の挨拶があった。

## 3. 報告事項

### (1)評議員からの質問

日本ジュニアヨットクラブ連盟の中根評議員から、JSAF 後援申請の審査について質問があった。毎年 JJYU が主催または県連共催で開催する「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会」、「ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウスカップ東京）」「国際親善大阪レガッタ（ミキハウスカップ大阪）」等に関して、JSAF 傘下の特別加盟団体として後援申請しているが、承認について迅速な対応をお願いしたい。普及大会への後援申請の審査は、選手権大会とは別の基準あるいは別組織で審査をしていただきたいとの発言があった。

川上レース委員長から、JSAF レース委員会では、共同主催・公認・後援する大会である限り、RRS に基づき開催するべきであると考えている。海外の選手、指導者が参加する大会、これから世界を目指す日本のセーラーが参加する大会等においては、世界標準の大会運営がされるべきである。こうした趣旨の下、1999 年にレース・オフィサー制度を創設し、普及を図ってきた経緯があるので、レース委員会活動にご理解いただきたいとの回答があった。

### (2)評議員からの報告

兵庫県セーリング連盟の川上宏評議員から資料に基づき、第 6 回「海の甲子園」ユースセーリングカップの案内があった。8 月 23～24 日、新西宮ヨットハーバーで開催される。来年から 420 級ならびにレーザーラジアル級が使用艇になるとの発言があった。

### (3)JSAF 及び委員会からの報告

報告事項(1) JSAF ホームページリニューアル

柳澤広報委員長から、JSAF ホームページリニューアル進捗状況について報告があった。新ホームページ機能は、トップページ、レーシング、プレスルーム、about us、スポン

サーのコンテンツとした。スポンサー企業のバナー広告は、3か所にバナースペースを提供し、ローテーションとする。理事各位には、新ホームページのURLと認証コードを配信するので、画面デザイン等でアドバイスをいただきたい。リリースは6月下旬予定であるとの発言があった。

#### 報告事項(2) 平成26・27年度評議員選定委員会委員の選定

鈴木総務委員長から資料に基づき、評議員選定委員会委員の選定について報告があった。5月理事会において、評議員選定委員会委員は、杉山嘉尚氏（評議員）、児玉萬平氏（監事、新任）、前田彰一氏（事務局員、新任）、高木伸学氏（第三者委員）、元山登雄氏（第三者委員）5名の推薦と選任したとの発言があった。

#### 報告事項(3) オリンピック強化委員会活動報告

西岡オリンピック強化委員長から資料に基づき、オリンピック強化委員会活動報告があった。オリ強の役割(ミッション)は、①オリンピック競技におけるメダル獲得のための選手強化、②公正な日本代表選手選考、③次世代選手育成強化、④JOC、TOTO、スポーツ振興基金への予算申請と報告業務である。オリ強の活動の多くの部分は、JOCと文科省所管の独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）から補助・助成を受けた事業を行っている。多くの事業は1/3または20%連盟が資金負担を求められている。この資金負担分（自主資金）は事業への参加費と寄付金で賄われている現状がある。

種目も年代も拡大した強化の方針・普及との接点・支援策は、リオに向けてはNT選手として、470男女（男子4チーム、女子2チーム）、レーザーラジアル(3チーム)、レーザー(2チーム)、49er、FX、NACRA17、Wind RS：X男女(男子2チーム、女子3チーム)、計28名が活動している。選手強化は、8～12年の期間を視野に入れ、NT(次回オリンピックを視野に活動)、次世代選手（東京以降を視野に活動）の強化、育成に取り組んでいる。また、コーチの層も厚くする機会(ペイド、ボランティア、コーチ教育)、2020人材レガシーは、国内合宿に参加してもらうことが実質的に人材育成機会に使えるのではないかと考える。レースマネジメント、ジャッジ、コーチ教育の機会を提供できる。その場合は、各方面の委員会が主体となって、強化合宿に人材育成のための派遣を取りまとめてもらいたい。また海外からコーチを招聘し、海外コーチとの交流機会を通じて、情報交換、学べる機会を作るよう努力していくとの発言があった。

#### 報告事項(4) オリンピック強化委員会活動報告

斎藤理事から資料に基づき、オリンピック強化委員会活動報告があった。2014年9月19日～10月4日まで韓国・仁川で開催される「第17回アジア競技大会」及び2014年8月16～28日まで中国・南京で開催される「第2回ユースオリンピック大会」、2014年11月14～23日までタイ・プーケットで開催される「第4回アジアビーチゲームズ」への選手・

役員代表選手団を JOC に推薦したとの発言があった。

#### 報告事項(5) 国体委員会報告

森国体副委員長から資料に基づき、国体委員会報告があった。平成 27 年開催の第 70 回国民体育大会和歌山国体から艇種が変更される。また、レースコースはオリンピックを意識して、トラペゾイドコース及び風上・風下コースで実施する。長崎国体予備エントリーを実施しているので協力いただきたい。また、都道府県予選会免除の特別措置制度もあるので利用していただきたい。国体参加資格は判断が難しいが、ウインドサーフィン級の参加者が少ないので、「ふるさと登録」制度などを有効に利用していただきたいとの発言があった。

#### 報告事項(6) オリンピック準備委員会報告

小山オリンピック準備委員会副委員長から、オリンピック準備委員会報告があった。①ブラジルセーリング協会と JSAF とで相互協力の協定書を結んだ。② 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けたセーリング競技運営ボランティアを募集する。JSAF では、セーリング競技運営に携わるスタッフの育成を兼ね「セーリング競技ボランティア登録制度」を発足させる。③昨日、オリンピックセミナーを開催した。④組織委員会の JSAF 窓口も決定し、プレプレ大会に準備委員会から視察するとの発言があった。

#### 報告事項(7) 環境委員会報告

永井環境委員長から資料に基づき、環境委員会報告があった。ISAF は環境責任を明確に謳っていることから、JSAF も昨年に引き続き、「残したいのはきれいな海」をスローガンに、環境コンテスト 2014 を実施するので、アイデアを応募していただきたいとの発言があった。

#### 報告事項(8) 普及指導者委員会報告

川北普及指導者委員長から資料に基づき、普及指導者委員会の活動報告があった。本年度から、指導者委員会と普及委員会が統合され、普及指導者委員会として新しくスタートする。日本体育協会の指導者養成講習は 5 種類の講習会を実施する。指導者資格保有者は、義務研修受講が必須であるので、更新半年前までには受講完了されていないと更新できないので注意していただきたい。

制式艇種指導者講習会開催の案内があった。また、制式艇種指導者講習会の企画案ならびに 2014 年度選手・指導者制式艇種強化大会も実施するので参加いただきたいとの発言があった

#### (4)その他

- ①相澤理事から、東北大震災の報告ならびに支援御礼があった。  
岩手県セーリング連盟の長塚評議員から、宮古改修工事の報告とセーリング活動復活状況について発言があった。
- ②山口県セーリング連盟の小泉評議員から、マリンスポーツフェスティバルの案内があった。
- ③千葉県セーリング連盟の大橋評議員から、国体艇種変更に伴い、レーザー級に関するも420同様の援助はあるのか、また、ワールド等開催用に受け入れた海外船籍のサポートボートの国内登録は必要かとの質問があった。  
森国体副委員長から、メーカーに交渉しているが、新古艇について協議しているとの回答があった。  
小山オリンピック準備委員会副委員長から、ワールド開催エリア内ならば国内登録および免許も不要とする。東京オリンピックに向けて今後も交渉するとの回答があった。

以上、平成26年度定時評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成26年6月14日

会 長 河 野 博 文

議 長 大 村 雅 一

議事録署名人 中 川 淳

議事録署名人 坂 文 彦